

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その49）

～「小よく大を制す」～

2024年1月吉日
U12部会広島地区
SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、あけましておめでとうございます。

本年もU12部会へのご支援とご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて年末に行われたウインターカップは多くの方がご覧になったことと思います。

男女の日本代表の活躍によりバスケットボールの人気の高まる中、今大会の有料入場者数が大会史上最多の61,554人だったそうです。

今大会では、準々決勝で女子の岐阜女子高等学校が桜花学園高等学校を、また男子の福岡第一高等学校が東山高等学校をそれぞれ奇跡の大逆転をするなど歴史に残る試合がありました。

また広島地区ミニバス出身者の活躍も目立ち、観戦していて思わず力が入る場面もありました。

試合においては、背の高い留学生選手のダンクシュートも見ていて迫力があるのですが、私的には背が低くても機敏なドリブルワークでディフェンスを抜いたりゲームをコントロールしたりする選手に目が行きがちでした。

特に女子のベスト5に選ばれた京都精華の堀内選手、男子のベスト5に選ばれた福岡第一の崎浜選手と山口選手のガード陣の動きは、技術的にも体力的にもすばらしいものだったと思います。

実際、多くのミニバス選手があこがれる日本代表の富樫勇樹選手の身長は167cm、河村勇輝選手の身長は172cmですね。

両選手がスピードあるドリブルで相手を抜いたり、パスをしたり、シュートを決めたりする姿は本当にカッコいいですね。

そこで今回のコラムのテーマ「小よく大を制す」としました。

バスケットボール界における富樫選手や河村選手の活躍はご存じの通りですので、今回はあるプロ野球選手の記事を取り上げてみました。

保護者の皆様は記事を読めば、この投手がマツダスタジアムや神宮球場で投げる姿が思い浮かぶと思いますが、小学生にはちょっと難しいかも。

また私自身、年齢を重ねてくると、どうしてもベテラン選手を応援したくなるもので・・・すみません（笑）。

『167cm 石川の凄さ』

小よく大を制す。

球界最年長43歳の男は、そこにプライドを持っている。

身長167cmのヤクルト石川雅規投手は野球少年、少女を前に声を大にして言った。

「野球って小っちゃいから、やっちゃいけないルールないよね？ 体が大きい人しか、うまくならないとかじゃないよね？ 野球はね、無差別級なの。格闘技みたいに階級はないの。分かるかな？」

年の瀬の28日、石川は訪れた野球塾で、子どもたち約50人、保護者約30人を前に講演した。

何度も繰り返したのは「無差別級」の言葉だった。

「僕は中学1年で身長137cmしかありませんでした。前ならえは、いつも先頭。でもね、関係ないの」とうなずいた。

「みんながヤクルトの村上選手みたいな打ち方をしなくていい」。

親から授かりし体は、それは個性。

「僕はストレートが最高で135キロしか出ません。また僕が急に身長185cmになれるわけではない。大事なことは自分の体でできる範囲のことを知ること」。

子どもたちの表情は半信半疑。それでも次の言葉で目は瞬く間に大きくなった。

司会者が「大谷翔平選手と対戦したことがありますか？」と聞くと、

「1試合だけ。その時は132キロのストレートで見逃し三振をとりました」と少しだけ得意げに言った。

2016年6月1日に札幌ドームで行われた交流戦。今や日本の世界のオオタニさんを手玉にとった。

子どもたちの「やば」「えぐ」の言葉は、室内練習場にこだました。

近年のプロ野球界において150キロ超の投手はざらにいる。また身長180cm以上の選手もスタンダード。

石川は背伸びすることなく、その体で通算185勝。まさに『小よく大を制し』続け、プロ22年。

「大きい人に負けたくないとか、もっとうまくなりたいって気持ちはずっと持っていた」。

子どもたちの真剣な表情は時間を追うごとに増していった。

無差別級の世界で腕を振る小さな巨人の言葉は、1時間では物足りなかった。